

# 警固公園再整備事業にみる 地方都市活性化に向けた公共施設デザインの 配慮事項に関する考察

柴田 久<sup>1</sup>・石橋 知也<sup>2</sup>

<sup>1</sup>正会員 福岡大学教授 工学部社会デザイン工学科 (〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1)  
E-mail:hisashi@fukuoka-u.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 福岡大学助教 工学部社会デザイン工学科 (〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1)  
E-mail:tomoya@fukuoka-u.ac.jp

本研究では警固公園再整備事業の設計プロセスと効果を明らかにし、地方都市活性化のための公共施設整備に求められるデザイン上の配慮事項について考察した。その結果①同公園再整備事業において、視点を考慮した眺めの確保や微地形のデザインによる園内外の「見る見られる」関係づくりが周囲への公園の魅力伝播と来園者の増加に繋がったこと。②再整備後の公園では歩行者動線が園内全体に広がり、少年補導件数の減少等、治安改善効果が明確化されたこと。③供用開始後、隣接するソラリアプラザが公園側の外壁を改修、売り上げを向上させるなど、公園の再整備が周辺への波及効果をもたらしたこと、④地方都市の活性化に向けた公共施設整備に求められる配慮事項として、日常性、波及性、継続性を挙げ、デザイン上の工夫点として考慮すべきことを指摘した。

**Key Words :** KegoPark, provincial city revitalization, public facilities, design considerations

## 1. はじめに

### (1) 本研究の背景と目的

福岡市中央区にある警固公園は、かつて園内の暗がりや死角の多さから、若い女性を狙った性犯罪や夜間のスケートボードの騒音被害等が相次ぎ、犯罪の防止と迷惑行為の抑制が急務の課題となっていた。これを受け福岡市役所は警固公園の再整備事業を実施し、平成24年12月にリニューアル・オープンさせた。再整備後の公園は治安改善とともに賑わいを取り戻し、土木学会デザイン賞等の評価も得るなど、本事業の詳細やデザイン上の要点等を明らかにすることは、地域活性化に向けた有益な知見となり得よう。

本研究では、警固公園再整備事業の経緯や設計プロセスとともに、公園の再整備がもたらした効果を明らかにすることで、地方都市活性化のための公共施設デザインに求められる配慮事項について考察を試みる。

### (2) 本研究の位置づけ

公園の防犯や安全性に関する既存研究として、利用者の犯罪不安感に対する住民管理活動の効果<sup>1)</sup>、住民の

公園利用選択意識<sup>2)</sup>、植栽の配置計画<sup>3)</sup>、認知要因<sup>4)</sup>との関係性など、既存公園における利用者意識に基づいた危険要因の解明に論点を置いたものも多く見られる。また上記既存研究の中で危険要因の除去に向けた結論として、管理活動や監視性強化の必要性を述べたものが見受けられるものの、具体事例における物的な対策や設計段階の留意点等にまで詳述したものは未だ少ない。加えて公園計画における設計・管理の優先順位付け及び具体的方針を提案したもの<sup>5)</sup>も見られ、公共公益施設整備による活性化施策を論じた研究はこれまでも多く見受けられる<sup>6)</sup>。しかし、先行する具体事例として計画から施工に至る実践的な公園整備プロセスと効果を明確化したうえで、地域活性化策をデザイン論的検証から考察した研究は未だ希少である。

## 2. 警固公園再整備事業の概要と経緯

### (1) 警固公園の立地環境と諸元について

警固公園は昭和26年に開設され、平成元年に福岡都心部の再開発に併せた第一回目の再整備が行われている。同公園は商業施設の集まる天神地区のほぼ中央に位置し、



図-1 警固公園の立地環境

東側に西鉄福岡駅，三越デパートの入ったターミナルビル，北側にはソラリアプラザ・ビル，西側にレソラビル，家電量販店，南側には警固神社が隣接している（図-1）。公園の総面積，種別は11382㎡の近隣公園であり，地下には駐輪場と福岡中央駐車場，また園内には公衆トイレや上記地下駐車・駐輪場への出入り口も設置されている。

## (2) 治安の悪化が問題視された旧警固公園

警固公園は路上ライブや冬のイルミネーションの開催場所として有名で，地元テレビ番組の取材場所としても多く登場，広く九州一円から，特に若者の集まる人気スポットとなっていた。しかし，こうした若者の人気とは裏腹に，リニューアル前の警固公園には性犯罪の温床となっていた築山（写真-1）や老朽化したトイレ，繁茂した樹木等による死角や暗がりが多く存在し，深夜にはレイプ事件や強引に車に女性を連れ込む「ハント族」（写真-2）と呼ばれる集団が屯するなど，夜間にはほとんど人通りの見られない危険な公園となっていた。また若者のスケートボード・ジャンプやピストバイク等の練習によるベンチや舗装面の破損（写真-3），深夜の騒音，さらには薬物売買等の悪質な行為も横行していた。見通



写真-1 築山の様子

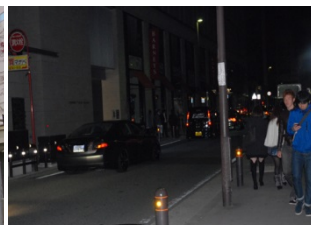


写真-2 ハント族の車両



写真-3 舗装の破損状況



写真-4 壁面の落書き

しが悪く，人通りの少ない園内の通路や施設には，落書き（写真-4）や無許可でのポスター掲示も散見され，景観的にも醜悪な状況を呈していた。これらの事態を打開すべく，福岡県警察によるパトロールや市民と周辺企業の職員による防犯ボランティアの活動がはじまることとなる。しかし，効果的な問題解決にまでは至らず，頭を悩ます状況が続いていた。

## (3) 再整備事業の推進体制と設計方針

これを受け，福岡市市長の強い意向もあり，福岡市「みどりのまち推進部」はハード面による対策に着手，平成24年度より本格的な再整備事業をスタートさせた。特筆しておきたいのは平成22年7月に発足された「警固公園対策会議」の存在である。本会議は平成22年7月に発足し，本事業に先立ち福岡県警察生活安全部，福岡市役所みどりのまち推進部，中央区役所地域整備部，天神・大名地区住民，防犯ボランティア（ガーディアンエンジェルス福岡支部）代表，福岡大学景観まちづくり研究室他が一堂に会し，警固公園の治安対策に関わる現状の報告や再整備の方針について協議・合意形成がなされた（平成26年1月までに計13回開催）（図-2，写真-5）。本再整備事業における平成23年度，24年度の協議・検討経緯を表-1に示す。警固公園の再整備事業では市役所より当初から①見通しの確保，②公園と公園周辺の双方向に開放された動線の確保，③スケートボード等，不適切な利用の仕方を抑制，④公園をセットバック(兼用工作物化)し，前面歩道を拡幅，⑤目につきやすい場所へトイレを移設という5点の課題が整備方針として示され，これに対する現地調査，模型検討等を含めた各種打ち合わせと提案，随時上記対策会議にて報告，合意形成が行われるかたちで進められた。その結果，前述した犯罪発

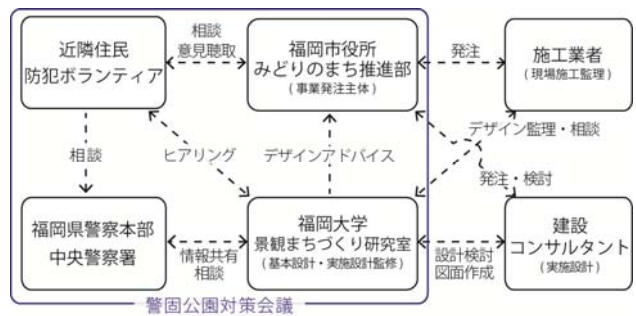


図-2 警固公園再整備事業における関係組織体制



写真-5 警固公園対策会議



写真-6 ヒアリングの様子



表-1 警固公園再整備事業における検討経緯

日付・項目	参加者	作業内容・協議のポイント
8/2 現地踏査①	大	・落書き、器物破損等の迷惑行為の確認および現状把握
9/1 打ち合わせ①	大/市	・新警固公園デザイン第一案の提示
9/14 現地踏査②	大	・警固公園周辺施設の高さおよびファサードの調査
模型作製	大	・警固公園周辺施設の模型作製(1/100)
10/3 第7回対策会議	大/市/警/住	・新警固公園デザイン第二案の提示とセンター建設位置検討
10/14 現地踏査③	大/住	・警固公園の現状を把握(住民は静かな公園への変貌を希望)
10/17 電話相談	大/市	・新警固公園デザインの大規模変更が可能
10/25 現地踏査④	大	・芝の養生状況の把握
10/26 第8回対策会議	大/市/警/住	・スケボー等の抑制策として曲線形状ベンチを提案[研究室]
11/24 打ち合わせ②	大/市/コ	・新警固公園デザイン第三案の提示
11/24 利用実態調査①	大	・平日深夜の利用実態調査(動線調査)
11/26 利用実態調査②	大	・休日深夜の利用実態調査(動線調査)
12/8 スタディ①	大	・新警固公園デザイン第一案を元に公園デザインを検討
12/9 現地踏査⑤/ 打ち合わせ③	大/市	・歩行空間、たまり空間、トイレの設置範囲の確認
12/16 スタディ②	大	・スケボー対策、ベンチの設置位置を検討
12/20 現地踏査⑥	大	・歩道の幅および園内段差の高さの測量
12/21 現地踏査⑦	大/神	・神社の雰囲気を守りたい[警固神社] ・西鉄ホームからの見通しの悪さを確認
12/26 スタディ③	大	・新警固公園デザイン第三案完成
スタディ④	福岡大学	・スタディ模型作製(1/100) ・周囲建物からの見えと子供広場へのトイレ移設検討
12/28 打ち合わせ④	大/市/コ	・子供広場へのトイレ設置案却下・センター建設位置b案に決定
1/6 現地踏査⑧	大/住	・トイレは汚しにくく雰囲気良いものを要望(住民)
スタディ⑤	大	・トイレ設置位置を駐輪場出入口の西側にすることを検討
1/16 打ち合わせ⑤	大/市/コ	・センター設置位置がa案に変更・トイレ設置位置は公園北東に変更
1/25 スタディ④	大/市	・センター建設位置を踏まえ、研究室から園路の配置案を3案提案
1/27	大/市	・センター建設位置がb案に決定
2/1 打ち合わせ⑥	大/市/建	・デザインコンセプトおよびセンターの実施設計の留意点の共有
2/3 現地踏査⑨	大/市/住	・バーゴラの撤去を検討
2/8 第9回対策会議/ 打ち合わせ⑦/ 現地踏査⑩	大/市/住	・防犯カメラの取り付けについて前向きに検討する[市] ・トイレは全面ガラス張り決定 ・西鉄福岡(天神)駅ホームからの見えについてコンサルと確認
2/21 打ち合わせ⑧	大/市	・円形舗装とベンチ座面は御影石(グレー系)の使用を検討
3/23 打ち合わせ⑨	大/市/建	・便器の色・壁・天井・外装の石材の材質および色味を決定
3/27 住民説明会	大/市/住	・園内のゴミ掃除の担当についての要望(住民)
4/19 第10回対策会議	大/市/警/住	・喫煙スペース増築に関する提案(住民)
5/8 福岡市長訪問	大/市	・1/100模型およびpptによるプレゼンテーション
5/10 現地踏査⑪	大	・中央広場部の園路舗装の配置に関し、現場にて3案検討
5/16 打ち合わせ⑩	大/市	・中央園路舗装は石材幅300mm、間隔600mmを提案[研究室] ・ベンチ座面部を50mm前方に出し、照明光拡散の抑制を提案[研究室]
5/28 打ち合わせ⑪	大/市	・照明色は乳白色に決定
スタディ⑥	福岡大学	・ベンチのスタディ模型作製(1/50)
6/15 打ち合わせ⑫	大/市/施	・施工業者と舗装色、園路舗装と円形舗装の接合部のイメージ共有 ・中央園路舗装の舗装幅、間隔についての提案内容を伝達[研究室] ・車止めはプランターに決定
7/3 現地踏査⑫	大	・原案の園名板サイズでは大きすぎること把握[研究室]
7/3 スタディ⑦	大/市	・園名板のサイズおよび表示内容を改めて提案[研究室]
7/23 現地踏査⑬/ 打ち合わせ⑬	大/市/施	・照明幅を30mm、座面部の出し幅を100mmとして再提案[研究室] ・座面部、側面部には御影石[サビ]を使用することに決定
7/27 打ち合わせ⑭	大/市/施	・中央園路舗装および円形舗装の石材決定 ・ベンチ座面部の出し幅は60mm、照明幅は40mmに決定
8/20 打ち合わせ⑮	大/市/施	・外周舗装の色味は雨天時を考慮し、淡い暖色に決定
スタディ⑧	大	・8枚の分煙板デザイン案を考案[研究室]
10/10 打ち合わせ⑯	大/市	・分煙板のレール検討
10/13	大/市	・分煙板の設置数および位置の変更
スタディ⑨	大	・分煙板のデザイン修正[研究室]
10/30 現地踏査⑭	大/市/施	・ベンチ座面部の舗装色が白色がかっていることを確認
11/21 第11回対策会議	大/市/警/住	・警固公園工事期間中、スケボーは天神中央公園に移動
11/21 現地踏査⑮	大/市/施	・園内照明の試験点灯
11/22 内覧会	大/市/報	・市長による公園紹介と取材
11/30 打ち合わせ⑰	大/市/建	・木目調アルミのルーバー使用を提案[建築事務所]・屋根の形状検討 ・ルーバーとベンチの距離間について指摘[研究室]
12/1 開園式		
12/7 打ち合わせ⑱	大/市	・屋根の形状検討・シルバーアルミのルーバー使用を提案[研究室] ・ベンチにルーバーが近接していることを指摘
1/16 打ち合わせ⑲	大/市	・赤みがかったルーバーを数本使用することを検討
1/18 利用実態調査③	福岡大学	・平日の利用実態調査(動線調査/行動調査/アンケート調査)
1/19 利用実態調査④	福岡大学	・休日の利用実態調査(動線調査/行動調査/アンケート調査)

※ 大:福岡大学景観まちづくり研究室、市:福岡市役所みどりのまち推進部、警:福岡県警察生活安全部、住:地元住民・防犯ボランティア、神:警固神社関係者、コ:建設コンサルタント、建:建築設計事務所

生の温床となっていた築山を撤去する防犯対策とともに、後述する新たな中央園路の設置や見通しと動線を考慮した具体的な再整備におけるデザイン案が固まっていた。

### 3. 日常的利用状況と視線交錯を考慮した設計プロセス

#### (1) 旧警固公園における利用・動線実態調査

本事業では設計に先立ち、旧公園の防犯上の課題な

警固公園 動線・利用行動調査結果(整備前) (調査期間:2010年10月22-23・29日) 福岡大学景観まちづくり研究室

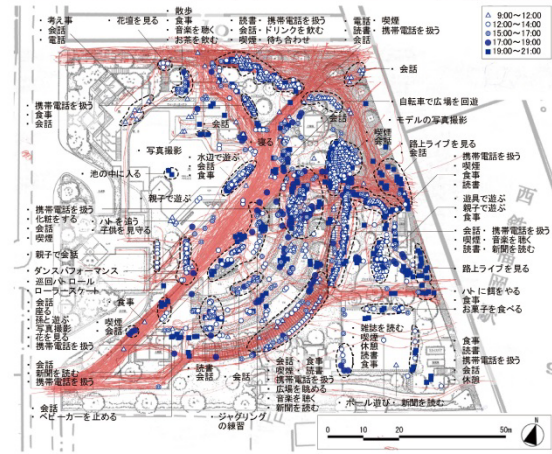


図-3 旧警固公園の動線・利用実態調査結果

らびに利用実態を把握するため、長年公園の防犯ボランティアに従事している天神校区町内会長、日本ガーディアンエンジェルス福岡支部メンバーならびに警固神社宮司等へのヒアリング調査が実施されている(写真-6)。その結果、園内ならびに公園周辺における現状として、深夜1時から4時頃まで行われるスケボージャンプ等の騒音被害や園内の事件発生箇所、隣接する警固神社通りの深夜の状況等について把握がなされた。さらに閉鎖的だった旧警固公園では周囲からの見通しが悪く、加えて前述の築山や警固公園通り側の通路、園内南側のトイレ周辺に多くの死角が存在し、不法薬物売買や性犯罪発生等の温床となっている実態が明らかとなった。

次に現地におけるトレーシングペーパーを使った利用行動調査を実施し、9:00~21:00、21:00~26:00の二つの時間帯に分けて園内の動線ならびに滞留している場所とその内容等について把握を試みた(調査日は利用の多い気候、平日休日等を考慮し、平成22年10月22日(金)、23日(土)、29日(金)、平成23年11月24日(木)、26日(土)とした)。旧公園の9:00~21:00における利用行動調査の結果を図-3に示す。これより旧公園では円弧状の自然石ベンチのあるエリアや中央部で休憩や食事などの利用が見られ、さらに園内北東部と南西部をつなぐ多くの動線が存在していることが看取された。一方、死角の多い園内北西部の築山周辺や警固神社に面する公園南側通路の人通りはほとんど見られない結果が得られた。

#### (2) 模型を用いた視点場からの眺めの確認と協議

再整備案の設計過程では、園内の各施設の配置、形状、周囲からの見え等を公園全体の1/100模型、ベンチ等の細部は1/5模型等によって検討・確認しつつ、関係者間のビジュアルな意識共有と合意形成が図られた(写真-7)。特に基本設計案における公園南部の見通しやソラリアプラザ2階のカフェ、西鉄福岡(天神)駅ホームからの見えを確認しつつ、地下埋設構造物の状況等を加味





写真-7 模型検討の様子

しながら、トイレの移設位置や植栽の剪定・除去が協議されていった。またベンチを含め園内の舗装石材や表面の仕上げ等については施工現場にて最終確認を行ったうえで決定された。



写真-8 旧警固公園の中央部の様子

#### 4. 再整備された新警固公園のデザイン

再整備された警固公園のデザインコンセプトは「防犯と景観の両立」とされ「公園内の見通しと利用者の来園を促すことによる（監視性）防犯効果の向上とともに、周囲に広がる街の景観と賑わいを警固公園の魅力として取り込む」というものであった。以下にリニューアルされた警固公園の主なデザインの特徴ならびに企図した設計方針等について詳述する（図-4）。

##### (1) 中央園路と円形石段ベンチの設置

まず死角を形成していた築山の撤去とともに公園の北西部と南東部をつなぐ中央園路が新たに設けられ、利



写真-9 新警固公園に新設された中央園路 (写真右側ソラリアプラザの外壁は5章で述べる改修の前)

用者の往来と見通しの向上が図られた（写真-8, 9）。中央園路の北側延長上には、ブランドショップの入るレスラビルのファサード、さらに警固神社通りの人通りが



図-4 新警固公園の平面図とデザインコンセプト





写真-10 新警固公園中央園路から見た園内の夜景



写真-11 新警固公園における自然石ベンチエリア



写真-12 石段ベンチの様子

見え、周囲に広がる都会的な建築意匠と往来者の様子が園内の借景として取り込まれている(写真-10)。園路の幅員は歩行者の離合が最低限可能な3mとし、舗装材には御影石(赤)、仕上げには滑りと色味を抑えるため、ジェットバーナーよりも汚れの付着しにくいサンドブラストが施されている。

さらにリニューアルされる前より円弧状に設置され、多くの利用があった自然石ベンチのエリアは、旧公園に対する利用者の記憶(愛着)を考慮し、園内全体の段差を無くすバリアフリー整備を施したうえで、以前の形に再配置されている(写真-11)。また新たに石段型のベンチが増設され、形状は上記旧公園の円弧を踏まえて曲線に、さらに芝生内に設置することで騒音被害となつて

いたスケボージャンプ等の迷惑行為を抑制させている。ベンチの足元にはピンコロ石(サクラ)が配され、2cmの目地はハイヒールを履いた女性の利用を考慮し、モルタルが詰められた。また本ベンチ座面下には乳白色の亚克力カバーを付けたLED演出照明が組み込まれ、夜間の公園における雰囲気づくりと安全性の向上が目指された(写真-12)。なおベンチの側面部には自然石小端積み(サビ)を、笠石には御影石(サビ/ビシャン仕上げ)が使用されている。

## (2) 見通し改善による周辺との「見る見られる」関係づくり

前述した築山の撤去とともに、園内では新たに植える樹木の配置が工夫され、公園北西部からの見通しとともにソラリアプラザ2階のカフェから園内が見通せるようになってきている(写真-13, 14)。さらに改修前、暗がりが多く、人通りの少なかった南側通路の線形は直線化され、加えて二重の柵が張られていた警固神社との境界部も改修されている。老朽化と共に死角を形成し犯罪の温床となっていた公衆トイレは人目につきやすい公園東部、西鉄福岡(天神)駅前に移設し、東西につなぐ通路の見通しも改善された(写真-15, 16)。同時に西鉄天神駅ホームからの見通しを阻害していた樹木に対しても、トイレの移設にあわせて1本撤去し、ホームから公園内の様子が眺められるようになってきている。園内に点在する3つの地下駐車場出入口階段のファサードには、周囲ビル



写真-13 旧公園におけるソラリアプラザのカフェからの眺め



写真-14 新公園におけるソラリアプラザのカフェからの眺め





写真-15 旧公園の南側通路の様子



写真-16 改修後の南側通路の様子

のファサードに合わせてシルバー色のルーバーを使用し、照明灯や時計塔のポールも同系色とするなど、園内付属物のデザインの統一も図られている。

### (3) オープンスペースと芝生空間の拡充

公園の北西部、南西部、南東部の出入口付近はオープンスペースが確保され、園内への動線やアクセス性の向上が図られた。さらに前述した築山の撤去にあわせ、中央広場を設置、市民や近隣企業等によるイベントの開催しやすい空間が提供された。また旧警固公園の特徴の一つであった円形の舗装パターンを活かし、園内の形態的な一体感が図られている（写真-14）。なお中央広場の舗装石材には中央園路（御影石（赤））との兼ね合いから90cm×60cm、30cm×45cmの2種類のサイズの御影石（サクラ）が使用されている。さらに公園全体に芝生エリアが増やされ、夕方にはビル陰に覆われる園内西側に前述した石段ベンチの組み込まれた「みはらしの丘」が公園内を見渡せる休憩スペースとして新設された。特に上記の丘や自然石ベンチエリアに加え、公園出入口から続く段差のない緩傾斜など、地面のデザインによる微地形の創出によって、中央広場に対する中心性と舞台性が高められている。

## 5. 再整備事業による治安改善と波及効果

### (1) 再整備による防犯上の効果について

平成26年1月22日中央警察署で開かれた第13回警固公園対策会議では公園改修前後一年間の犯罪情勢結果が報告されている。表-2は公園内の少年補導件数の推移であるが、改修後は20件（-35.4%）に減っている（改修前の31件は工事による立ち入り禁止期間以外の約7ヶ月の集計であり、年間で集計すると増減率はよりマイナスであると考えられる）。さらに警固神社通りに多く見られ、悪質さが問題視されていた「ハント族」もいなくなり、公園のリニューアルが体感治安の向上に寄与していることが報告された。

### (2) 新警固公園の動線・利用実態調査結果

次に供用開始から約1ヶ月後の平成25年1月18-19日に実施した新警固公園の動線・利用実態調査の結果を示す（図-5）。前述した旧警固公園の動線・利用実態調査の結果（図-3）と比べ、新公園では園内全体に動線の広がりが見られる。さらに新たに設置した中央園路や人通りの少なかった公園南側通路も多くの動線が確認された。また園内全体に多くの利用者、特に女性と子どもの増加が看取されている（なお本研究では21:00以降の深夜帯の調査も実施しており、動線数、利用者数は多少減るものの、全体的な分布傾向は21:00までの結果とほぼ同様であったことを確認している）。

### (3) 公園利用者への印象・体感治安に関するヒアリング

本研究では再整備から一ヶ月後の2013年1月ならびに一年後の2013年11月の2回に渡り、警固公園の利用者に

表-2 改修前後の少年補導件数（福岡県警調べ）

場所	改修前 (H23.12.1~H24.11.30)	改修前 (H24.12.1~H25.11.30)	増減率
警固公園内	31	20	-35.8%

※改修前の件数は工事期間を除く約7ヶ月間の集計

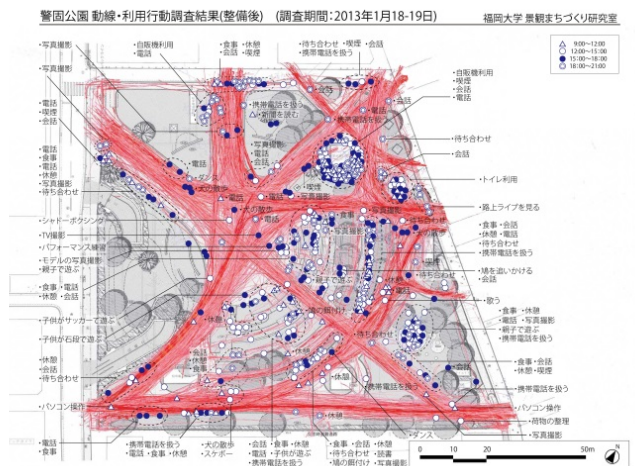


図-5 新警固公園の動線・利用実態調査結果

表-3 両ヒアリング調査の被験者属性

被験者属性 第1回目/第2回目(上段:第1回目 下段:第2回目)						
男性			女性			
53(50%) / 72(60%)			52(50%) / 48(40%)			
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
6(6%)	31(29%)	30(29%)	13(12%)	12(11%)	8(8%)	5(5%)
9(7%)	71(59%)	38(32%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)	1(1%)

表-4 調査回答結果

第1回目調査結果「新警固公園の印象について」(回答方式:自由記述)		
男性	印象・イメージ 見通しがよくなった(29)/前より綺麗(26)/安全・安心になった(14)/開放感がある(12)/さびしい(4)/明るくなった(3)/落ち着ける(3)/子どもを安心して遊ばせられる(2)/殺風景(2)/雰囲気よくなった(2)/特に変わらない(2)/見映えがする/天気がいい日は気持ちがいい/前より天神の街を感じる	
	デザイン・設備 トイレが明るくて綺麗(7)/喫煙所が広くて綺麗(5)/緑が少ない(3)/花がない(2)/子どもの遊具がよ	
	利用状況 よく来るようになった(6)/利用頻度変化なし(5)/待ち合わせ場所として利用(3)/今後も来たい(2)/付近に来た時に喫煙で利用/飲んだ後に立ち寄る程度/休憩	
	その他 イルミネーションがよい(2)/神社がよく見えるのでよい/ホームレスがいなくなつた/ゴミが多いので防犯に繋がると思う/ビルの囲まれている感じがいや	
	印象・イメージ 前より綺麗(30)/見通しがよくなった(30)/安全・安心になった(13)/開放感がある(11)/殺風景(7)/明るくなった(5)/さびしい(5)/安心して子どもを遊ばせられる(4)/すっきりした/今のほうがよい/落ち着く/特に変わらない/安心して通れる/雰囲気が良い/通りやすくなった	
女性	デザイン・設備 喫煙所が広くて綺麗(5)/トイレが明るくて綺麗(4)/子どもの遊び場を増やしてほしい(3)/花がほしい/樹木が少なくなっていくところの場所がもっと欲しい/喫煙所から園内を見渡せるのでよい	
	利用状況 よく来るようになった(5)/通り道(ショートカット)に利用(2)/買い物時に利用(2)/来る回数が増えるかも/よく来る/駅利用時に喫煙所を利用/昼食で利用/座る所が増えたので疲れた時に利用できそう	
	その他 神社がよく見えるのでよい/ホームレスがいなくなった/オープンスペースイベントをして欲しい/子どもが増えた/周囲のビルが見えるのが良い/カフェからの眺めがよい	
	第2回目調査結果「新警固公園の体感治安について」(回答方式:選択式)	
	選択肢	良くなっている(55(46%)) / どちらかと言えば良くなっている (65(54%)) 変わらない(0(0%)) / どちらかと言えば悪くなっている(0(0%)) 悪くなっている(0(0%))

対する直接ヒアリング調査を実施している。第1回目の調査では、整備前と比較した「整備後の公園の印象」について、さらに第2回目調査では公園利用者に対して「治安が良くなったか」との質問を行い、回答を得た。両調査の被験者属性を表-3に、調査結果を表-4に示す。これより男女ほぼ同割合の回答者数において、第1回目調査では多くの利用者から「見通しがよくなった」、「明るくなった」「安全・安心になった」「都心でこのように広々としている場所はないので良い」等の意見が得られた。また「見通しがよくなり、安心して子どもを遊ばせられるのでよく来るようになった」といった意見も得られている。一方、第2回目調査における「治安が良くなったか」との質問に対しては、「良くなっている」と回答した人が全体の46%、「どちらかと言えば良くなっている」が54%、その他「変わらない」「悪くなっている」等の回答は皆無であった。

#### (4) 周囲への波及効果について

既に写真-9と写真10, 11との違いで示されているように、警固公園の再整備から約一年後の11月29日、公園に隣接するソラリアプラザは公園側の外壁を改修、リニューアルオープンさせている。オープンより約半年前、プラザを所有・管理している西日本鉄道株式会社の広報室は、ソラリアプラザの改修に関して「平成24年度に刷新した警固公園の美しい眺望を最大限に活かすため、1階から6階までの外壁(南側エントランス)をガラスにする」と伝えている<sup>7)</sup>。また本研究では平成25年10月31日にソラリアプラザの館長、副館長に対して外壁改修の目的等について直接ヒアリング調査を行っている。その

結果、館長からは「警固公園の改修をきっかけに、これまで背を向けてきた警固公園側にも玄関口を置きたかった」との回答が得られた。同様に「外壁のデザイン検討の際、公園に隣接する商業施設という特性を活かすため外壁面に緑を取り入れ、警固公園とのデザイン的な一体化を図った」との回答も得られている。また新しくオープンした公園側の店舗には、以前からあった2階のカフェに加え、プラザ内の他の咖啡店等も公園側に移転し、「警固公園が一望できるカフェ」として売り上げを向上させている(3階咖啡店に対するヒアリングでは移転前と比べ、売り上げは約1.5倍になったとの回答を得ている)。また前述の第13回警固公園対策会議においても、警固公園に隣接する警固神社宮司から「公園の再整備後、神社の参拝客が増加した」との報告がなされた。

## 6. 地方都市活性化のための公共施設デザインに求められる配慮事項

本事業の経緯、効果等を踏まえ、地方都市活性化に向けた公共施設整備に求められるデザイン上の配慮事項として以下の3点が挙げられよう。

一点目は整備される公共施設の「日常性」に対する配慮である。今日、地方都市における活性化事業の多くが賑わい創出を標榜しつつ、外部からの観光客をターゲットに施策や拠点づくりを提案する傾向にある。都市公園の整備では、休日に多くの観光客を誘致できるイベントの開催場所として十分機能するかは重要な検討事項といえよう。これに対し警固公園再整備事業では、利用実態調査等、整備前後の公園に対する普段使いを主眼とした調査とそれを踏まえたデザインが利用者の増加を促すことに繋がったものと考えられる。すなわち、活性化を目指す事業においては、上記、非日常的な施設利用を見据えつつも、いかに普段から日常的に使われる場所となり得るかを考慮した施設のデザインが重要といえる。

二点目は公共施設における整備効果の「波及性」に対する配慮である。上記、活性化を目指した賑わい拠点づくりとして、公共施設が局所・集中的に整備されるケースは少なくない。しかし、郊外型大型商業施設の展開とともに衰退した中心市街地の構図と同じく、自己完結型の賑わい施設が周辺に対しマイナスの影響を及ぼす危険性について常に注意しておく必要がある。警固公園の事例では、公園内外の「見る見られる関係づくり」を考慮したデザインによって、公園整備をきっかけとした隣接商業ビルの改装と売り上げ向上、利用者動線の広がりなど、いくつかの波及効果が確認された。地方都市活性化の達成には、来訪者の動きや経済・商業的活動が局所的に完結せず、より広範に影響を及ぼせるかの視点が不可欠である。整備される施設が回遊拠点もしくは都市全体

の結節点として機能するかどうか、周辺との相互依存を念頭に置いたデザイン上の工夫が必要といえる。

三点目は整備される施設の「継続性」に対する配慮である。公共施設の整備に際しては、安易に全てを改変するのではなく、それまで培われ、親しまれてきた文化や場所性、地域が持つ構造等をいかに残し、継続して活かしていけるかに配慮する必要がある。警固公園においても以前より多くの利用者が休憩していた自然石ベンチエリアを整備後に再配置するなど、それまでの公園に対する愛着や記憶を活かしたデザインが採用された。また今後「地方創生」を巡り、巨額な補助金等がつくことも予想され、お金があることで無理に立派な施設を作らないよう、身の丈にあった施設の継続的運用についても考えておく必要があるだろう。

## 7. おわりに

### (1) 本研究の成果

本研究では、警固公園再整備事業の経緯と設計プロセス、効果等を明らかにしたうえで、地方都市活性化のための公共施設整備に求められるデザイン上の配慮事項について考察を行った。その結果、以下の4点が成果として挙げられる。

①治安が問題視されていた警固公園の再整備事業において、防犯対策のみならず視点場を考慮した見通しの確保さらに微地形のデザイン等による園内外の「見る見られる」関係づくりが図られ、公園の魅力向上と利用者増加に繋がった設計、調査過程が詳述された。

②利用実態調査の結果から、再整備後の公園では歩行者動線が園内全体に広がり、少年補導件数の減少や体感治安の向上、悪質なハント族がいなくなるなど、治安改善効果が確認された。

③供用開始から一年後、隣接するソラリアプラザが公園側の外壁を改修して売り上げを向上させるなど、公園の再整備が周辺への波及効果をもたらしていることが把握

された。

④地方都市の活性化に向けた公共施設整備に求められる配慮事項として、普段使いを考慮した「日常性」、施設効果が周囲に広がるかの「波及性」、活かすべき場とともに身の丈に合った施設運営の「継続性」を挙げ、デザイン上の工夫点として考慮すべきことを指摘した。

**謝辞：**本研究を進めるにあたり、警固公園対策会議ならびに福岡県警察生活安全部、福岡市役所みどりのまち推進部、ソラリアプラザビル館長他の方々にご多大なご協力を頂いた。ここに記して謝意を表す。

### 参考文献

- 1) 樋野公宏, 小出治: 住民による管理活動が公園の犯罪不安感に与える影響: 日本建築学会計画系論文集, 第592号, pp.117-122, 2005.
- 2) 上杉知, 細見昭, 黒川洸: 犯罪不安感を考慮した住区基幹公園の利用選択に関する研究, 日本都市計画学会学術研究論文集, No.34, pp.61-66, 1999.
- 3) 木村千晶, 熊谷洋一: 緑道空間における植栽と犯罪不安感に関する研究: ランドスケープ研究 68(5), pp.825-828, 2005.
- 4) 雨宮護, 横張真: 住宅地に立地する小公園に対する地域住民の犯罪リスク認知の構造と要因: ランドスケープ研究 68 (5), pp.947-950, 2005.
- 5) 中西康裕, 柄谷友香, 青山吉隆, 中川大: 利用者意識から見た街区公園の不安感発生要因と不安感喚起地点予測モデルの構築, 日本都市計画学会都市計画論文集 No.40-3, pp.619-624, 2005.
- 6) 例えば小林敏樹, 水口俊典: 公益施設の移転立地動向・跡地利用の実態と中心市街地活性化に向けたその整備の方向性—中心市街地活性化担当部局へのアンケート調査から—, 日本都市計画学会都市計画論文集 No.40-3, pp7-12, 2005.
- 7) 西日本鉄道株式会社ニュースリリース (2013年6月27日)  
[http://www.nishitetsu.co.jp/release/2013/13\\_041.pdf](http://www.nishitetsu.co.jp/release/2013/13_041.pdf)

(2015. 4. 24 受付)

## DESIGN CONSIDERATIONS IN CREATING THE PUBLIC FACILITIES FOR PROVINCIAL CITY REVITALIZATION SEEN FROM RENEWAL PROJECT OF KEGO PARK

Hisashi SHIBATA and Tomoya Ishibashi

The purpose of this paper is to grasp design considerations in creating public facilities for provincial city revitalization based on the clarification of the design process and the effort of renewal project of Kego Park. The points of the achievement for this paper are as follows: 1) Landscape and microtopography designs with surrounding viewpoints promoted attractiveness and the increase in visitor of the new park. 2) The renewal project enhanced the extent of user activity and improvement the security situation in the park. 3) The follow-up survey verified the fact of the renewal project had ripple effects on the surrounding area. 4) It revealed importance of Everydayness, Spreading and Continuity of the public facilities as design considerations for provincial city revitalization.